

登録10年の取り組み報告②
核心地域の拡張を実現しました

ユネスコエコパーク(以下BR)は、厳重に保護された自然が残る核心地域(コアゾーン)、核心地域保護のための緩衝地域(バッファゾーン)、人が生活し持続可能な発展を実現する移行地域(トランジションゾーン)の3つの区域を設定することが登録の条件になっています。

平成24年に登録された綾BRの核心地域は682ヘクタール(国有林の保護林に該当)。3つの地域の合計面積は1万4580ヘクタールと国内で最も小さく、ユネスコから水源域を含む核心地域の面積拡張の検討を行うよう登録時に条件がつけられました。

そこで、エコパーク推進室職員を中心に平成28年から核心地域の拡張に向けた現地調査を行いました。まずは、核心地域と同様に自然環境が豊かな地点がほかに残されていないかを調べ、専門家の協力を得ながら周辺の生きもの調査にも取り組みました。



サンショウウオ

その結果、核心地域に隣接する緩衝地域の一部で、源流を含む水源域に稀少なサンショウウオなどの水生生物の生息が確認されたほか、クマタカやカモシカなどの重要な生息域も含まれることが分



クマタカ

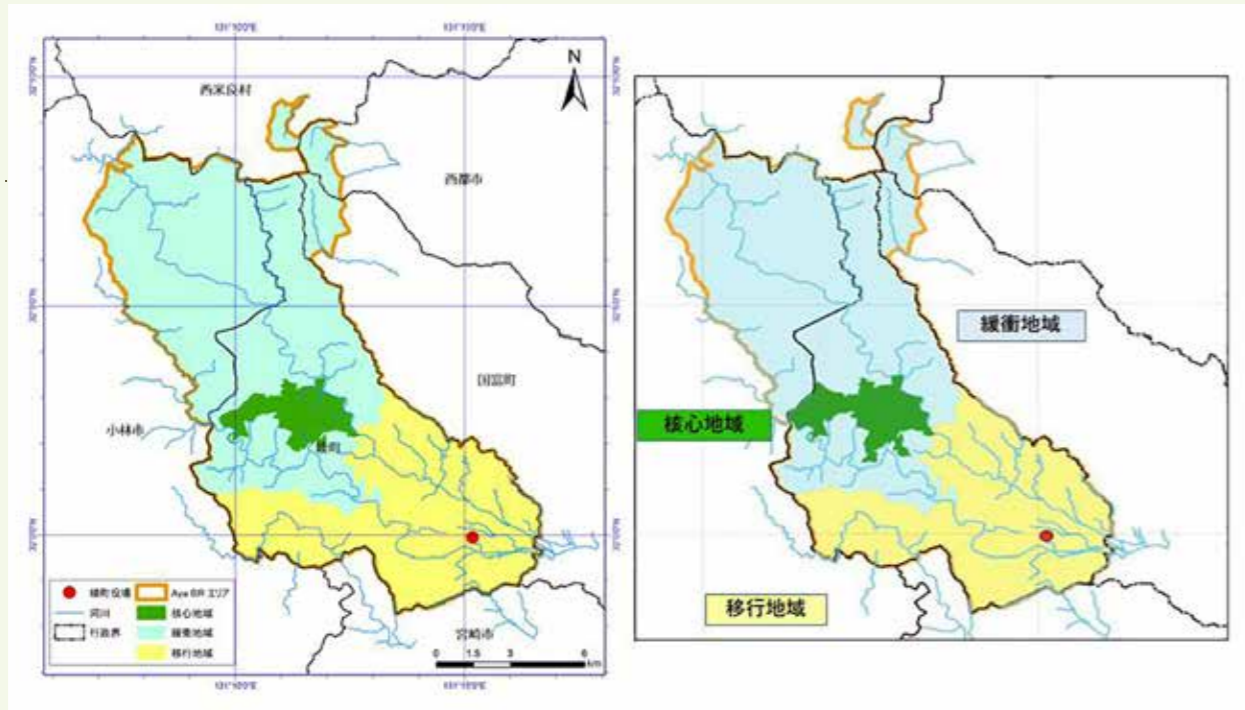
りました。

こうした調査の結果をもとに、九州森林管理局に国有林の保護林指定域変更を働きかけたことにより、平成30年に緩衝地域の一部(118.45ヘクタール)が核心地域に取り込まれることになり、核心地域の面積を682ヘクタールから800.45ヘクタールに広げることができま

	変更前の面積(ha)	変更後の面積(ha)
核心地域	682	800.45
緩衝地域	8,982	8,863.55
移行地域	4,916	4,730
合計	14,580	14,394

た。

一方、綾BRの面積を再確認する作業の過程で移行地域の面積に誤りが見つかったため、移行地域の面積は186ヘクタール縮小となり、現在、総面積は1万4394ヘクタールとなっています。



変更前

変更後

綾ユネスコエコパーク推進室・ユネスコエコパークセンター

☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館

column

ニホントカゲ

よく見かけるトカゲの代表的な種類。幼い頃はしっぽが鮮やかなタリックブルーに輝いて見えて、とつともきれいです。長い間、ニホントカゲは1種類だけだと考えられてきましたが、近年、遺伝子の解析が進んだことで、日本に分布するトカゲが3種類いることが分かってきました。伊豆諸島周辺にいるオカダトカゲと東日本にいるヒガシニホントカゲ、そして西日本にいるニホントカゲの3種類です。綾にいるトカゲは今まで通りニホントカゲで間違いありませんが、技術の進歩により、新しい種類に分けられる生きものが他にもまだたくさん出てくるかもしれません。



ムラの肖像

1970年代の広沢集落の田植の様子。

当時は、田植え・稲刈りなどの農作業や屋根の葺き替えなどを近隣の人たちが皆で行っていました。こうした労働の共同作業を「結い(結い講)」といいます。

田植の後は、労働をねぎらい合っ「さのぼり」という宴席がもたれていました。焼酎やブドウ液を飲みながら食事するのが楽しみだったそうです。

また、田の神さまや馬頭観音のまつり、春の花見、秋のお月見なども行われていました。交流は、娯楽が少なかったかつての暮らしの中で大きな楽しみのひとつであり、絆を深めることで共に汗をかき、共に喜び合う日々の営みを重ねていくことができたのです。



※昨年11月から町内の小規模集落で行っている「綾の肖像プロジェクト」で集めた写真の中から毎月1点を紹介しています